

平成30年度桜門体育学会大会報告

大会報告

日本大学 スポーツ科学部 本道 慎吾

平成30年度桜門体育学会大会(第9回大会)は、平成31年1月27日(日)に開催された。会場は日本大学スポーツ科学部で、昨年の商学部を引き続き文理学部以外での開催となった。本大会は基調講演、ワークショップ、一般発表(ポスター)、一般発表(口頭)、総会、懇親会といったプログラムで進められた。また本大会はテーマとして「競技者育成を考える」と題し、様々な企画を開催した。

基調講演は1号館3階1310教室にて行われ、講師は室伏重信先生(日本大学スポーツ科学部 客員教授)で、本大会のテーマである「競技者育成を考える」というテーマで講演いただいた。また、基調講演については日本大学スポーツ科学部研究所と共催という形式で行われ、一般の方にも公聴いただいた。なお、詳細な講演内容については本誌に別途資料が掲載されている。

ワークショップでは2つのテーマで催され、1号館地下1階1007教室および流水プールを設置している実験室6にて松本 洋平氏(株式会社 ダートフィッシュジャパン)に「競技者のために必要な情報とは一流水プールでの実例」と題してご担当いただいた。また、1号館地下1階の大型トレッドミルを設置している実験室4にて鈴木 典先生(日本大学 スポーツ科学部 教授)に「シミュレーショントレーニングシステムの構築」と題して2題目をご担当いただいた。いずれも競技者育成についてどのような支援が行えるか

をその方法論も含めて解説いただいた。

一般発表(ポスター)は1号館1階学生ホールで開催された。演題数は49演題と非常に多く、発表者は座長の指示に従い、3分間の発表を行った。多くの発表に伴い、時間的制約がある中で、活発な議論が交わされていた。

一般発表(口頭)は1号館エントランス前で開催された。演題数は5演題で、様々な領域から発表され、ポスター会場と同様、活発な議論がなされていた。

総会では、例年通り学会運営に関する報告、審議が行われ、滞りなく進行されていた。総会時に大会賞が発表され、奨励賞として大山美咲氏(日本大学スポーツ科学部競技スポーツ学科)「シャンジュマン動作におけるバレエ熟練者のバイオメカニクスの特性」、大会賞として深見将志先生(日本大学商学部)「HMDによる競技スキー滑走映像が競技経験者に与える心理・生理的な反応」がそれぞれ受賞した。その後、懇親会が開催され、本大会は閉会した。

本大会は、昨年に引き続き文理学部以外で行われる大会ということで、これまでとは勝手の違う準備となりましたが、様々な部分で文理学部の先生、桜門体育学会理事を含め多くの方にご協力いただきました。また、多くの企業・団体様にもご支援をいただき、円滑に学会大会が進行、終了したことについて、この場を借りて心より御礼申し上げます。